

2022年(令和4年)11月28日(月曜日)



千住金属工業

中部地区のはんだ事業強化

中部事業所 瀬戸工場 はんだ材料ラボ新設

千住金属工業は、中部事業所瀬戸工場（愛知県瀬戸市）にはんだ材料のラボを新設した。10月にポートメッセなごや（名古屋港区）で開催された「名古屋オートモティブワールド」（主催：RXジャパン）の「名古屋カーエレクトロニクス技術展」にも出展した。

愛知県を中心とした中部地区には自動車や工作機械、航空宇宙関連などさまざまな企業が集積しており、同社の顧客も数多い。ラボを新設した瀬戸工場は、すべり軸受を生産しているほか、はんだ材料とFA装置（フロー、リフロー装

置）の中部地区の営業拠点になっている。はんだ材料のラボは、国内では本社（東京都足立区）と栃木事業所松山工場（栃木県真岡市）に開設しており、顧客のはんだ付け評価試験や、顧客とのコラボレーションの場としても活用してい

る。瀬戸工場でも同様に、はんだ付け評価試験などに活用を始めていく。中部地区顧客に同社の最先端はんだ技術や製品を紹介するため、名古屋カーエレクトロニクス技術展に出展した。名古屋オートモティブワールドは、名

古屋カーエレクトロニクス技術展のほか、合計5展示会で構成された。名古屋ネブコンジャパン会場では、IPCが主催する「はんだ付コンテスト日本大会2022」が行われ、同社も協賛企業として開催を支援した。同社は脱炭素化の関心が高まる中で、はんだ付け事業の観点からカーボンニュートラル実現に貢献すべく、低

温はんだを使用した新開発のフローソルダリング工法や関連製品をはじめ、省エネを追求したりリフロー装置などを実装業界に広く提案している。

同展示会でも低温はんだ「LEO」をはじめ、低温はんだ付け材料（ソルダペースト、やに入りはんだ、棒はんだ、フラックス）や車載向けや入りはんだ「MACROS」シリーズを紹介し、「環境調和型リフロー炉」SNR-GTIIの実機展示も行った。

はんだ材料からフロー装置まで提供する低温フローソルダリング工法は、白物家電を中心に引き合いが増えており、同展示会でも来場者の関心を集めていた。

リフロー装置SNR-GTIIは、リフロー炉内雰囲気循環効率を向上させ、断熱構造の強化で消費電力量をSNR-GT比約10%削減した。窒素使用量も装置の入り口と出口部分にラピンスゾーンを設け、窒素カーテン機構を加えて炉内の窒素雰囲気流出を抑制し、さらに循環効率を向上させSNR-GT比で半減した。



はんだ材料のラボを開設した中部事業所



名古屋カーエレクトロニクス技術展で「環境調和型リフロー炉」SNR-GTIIの実機を展示した